



2023年6月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2023年5月12日

上場会社名 株式会社ユビテック 上場取引所 東
コード番号 6662 URL <https://www.ubiteq.co.jp/>
代表者 (役職名)代表取締役社長 (氏名)大内 雅雄
問合せ先責任者 (役職名)グループ管理部長 (氏名)手塚 佑介 (TEL)03(5447)6731
四半期報告書提出予定日 2023年5月12日 配当支払開始予定日 —
四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2023年6月期第3四半期の連結業績(2022年7月1日~2023年3月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年6月期第3四半期	593	△23.7	△207	—	△207	—	△192	—
2022年6月期第3四半期	777	△27.4	△143	—	△142	—	△145	—

(注) 包括利益 2023年6月期第3四半期 △193 百万円(—%) 2022年6月期第3四半期 △146 百万円(—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
2023年6月期第3四半期	円 銭 △13 04	円 銭 —
2022年6月期第3四半期	円 銭 △9 85	円 銭 —

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
2023年6月期第3四半期	百万円 2,608	百万円 2,448	% 92.6
2022年6月期	百万円 2,929	百万円 2,656	% 89.1

(参考) 自己資本 2023年6月期第3四半期 2,416 百万円 2022年6月期 2,609 百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
2022年6月期	円 銭 —	円 銭 0 00	円 銭 —	円 銭 0 00	円 銭 0 00
2023年6月期	円 銭 —	円 銭 0 00	円 銭 —	円 銭 —	円 銭 —
2023年6月期(予想)	円 銭 —	円 銭 —	円 銭 —	円 銭 —	円 銭 —

(注)1. 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

2. 2023年6月期の期末配当予想については、現時点では未定であります。

3. 2023年6月期の連結業績予想(2022年7月1日~2023年6月30日)

2023年6月期の業績予想につきましては、現時点で合理的に算定することが困難であることから、未定といたします。今後、業績予想の算定が可能となった時点で速やかに開示いたします。※詳細は、添付資料3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無

(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)

新規 一社、除外 一社

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数 (普通株式)

① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)

2023年6月期3Q	14,791,600株	2022年6月期	14,791,600株
② 期末自己株式数	一株	2022年6月期	一株
③ 期中平均株式数 (四半期累計)	14,791,600株	2022年6月期3Q	14,791,600株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、四半期決算短信 (添付資料) 3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報 (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(セグメント情報等)	8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症抑制と経済活動の両立が進み、企業収益や設備投資に持ち直しの動きが見られたものの、ウクライナ情勢の長期化、エネルギー・原材料価格の高騰や急激な為替変動による物価上昇などの影響により、景気の先行きについては依然として不透明な状況が続いております。

このような状況の中で、当社グループは2022年6月期を初年度とする4カ年の中期経営計画「ユビテック4.0」を策定いたしました。本中期経営計画ではIoTテクノロジー×AI・データ活用+外部サービス連携でお客さまの企業経営と生活を支え、新たな社会常識を創造するイノベーションカンパニーへの成長を目指すことを経営ビジョンとして掲げており、顧客ニーズと社会変化に対応してサービスの価値創造を続ける、持続的かつ可変的なビジネスモデルへと変革すべく、各種施策に取り組んでおります。

当第3四半期連結累計期間における主な活動といたしましては、安全見守りサービス「Work Mate」の注意力低下検知機能追加を始めとするブラッシュアップや顧客サポート体制の強化及び2022年9月から新たにサービスを開始した安全運転支援サービス「D-Drive」の機能拡充や営業展開を行うとともに、WEBマーケティング及びウェビナーなどによる情報発信や展示会への出展等を通じて、新規顧客の獲得に向けたプロモーション活動に積極的に取り組んでおり、「Work Mate」につきましては、新たに住友化学株式会社、東洋紡株式会社、キリンビール株式会社、昭栄化学工業株式会社に採用されるなど、大手製造企業・建設企業を中心に導入件数は増加しており業績に寄与しております。なお、「Work Mate」につきましては2022年11月に一般社団法人日本クラウド産業協会(略称:ASPIC)が発表した「第16回ASPIC IoT・AI・クラウドアワード2022」のAI部門において、「働き方改革賞」を受賞しました。

当第3四半期連結累計期間の業績につきましては、売上高は593百万円(前年同四半期比23.7%減少)、営業損失は207百万円(前年同四半期は営業損失143百万円)、経常損失は207百万円(前年同四半期は経常損失142百万円)、親会社株主に帰属する四半期純損失は192百万円(前年同四半期は親会社株主に帰属する四半期純損失145百万円)となりました。

セグメントごとの経営成績は、次のとおりであります。

I o T 事業

I o T 事業は、車載機関連につきましては概ね横ばいでの推移となりましたが、「Work Mate」及び「D-Drive」につきましては積極的なプロモーション活動効果などにより導入実績は順調に増加していることから、売上高は増収となりました。一方で、利益面につきましては、広告宣伝費及び有形・無形固定資産に係る減価償却費の増加等により、損失幅は前年同四半期より拡大しました。

この結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は356百万円(前年同四半期比5.6%増加)、セグメント損失は52百万円(前年同四半期はセグメント損失4百万円)となりました。

製造受託事業

製造受託事業は、従来の主力製品である紙幣鑑別センサモジュール及び通信アミューズメント機器が市場環境の変化による需要減少の影響を受け、売上高、セグメント利益ともに前年同四半期を下回る結果となりました。なお、製造受託事業においては、新規の量産案件として、当第3四半期連結会計期間より医療業界向けに咬合力計測機器用回路基板の販売を開始しております。

この結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は31百万円(前年同四半期比86.9%減少)、セグメント利益2百万円(前年同四半期比91.0%減少)となりました。

開発受託事業

開発受託事業は、子会社のユビテックソリューションズにおいて、保険分野における受託開発案件が増加したことに加え、グループ全体で進めている業務効率化及び人員の適正化も相まって、売上高は増収、損失幅も前年同四半期より縮小しました。

この結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は206百万円(前年同四半期比3.5%増加)、セグメント損失は6百万円(前年同四半期はセグメント損失21百万円)となりました。

(2) 財政状態に関する説明

(資産の状況)

当第3四半期連結会計期間末の資産合計は2,608百万円となり、前連結会計年度末から320百万円減少しております。主な内容としましては、現金及び預金が244百万円減少しております。

(負債の状況)

当第3四半期連結会計期間末の負債合計は160百万円となり、前連結会計年度末から112百万円減少しております。主な内容としましては、支払手形及び買掛金が55百万円減少しております。

(純資産の状況)

当第3四半期連結会計期間末の純資産合計は2,448百万円となり、前連結会計年度末から207百万円減少しております。主な内容としましては、親会社株主に帰属する四半期純損失192百万円の計上によるものです。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

当社グループは中期経営計画として、2025年6月期に連結売上高30億円、連結営業利益3億円の達成を目標に掲げており、これを実現するため、「Work Mate」及び2022年9月から新たにサービスを開始した「D-Drive」のさらなる機能拡充及び販路拡大に注力するとともに、オリックスグループとも連携しながら新たなビジネス開発を進めてはいるものの、2023年6月期の業績予想につきましては、現時点においては信頼性の高い数値を合理的に算出することが困難な状況であることから未定とし、記載しておりません。今後、連結業績予想の算定が可能となった時点で、速やかに開示いたします。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2022年6月30日)	当第3四半期連結会計期間 (2023年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2,218,039	1,973,822
受取手形、売掛金及び契約資産	368,012	194,819
商品	—	8,335
製品	13,202	56,643
仕掛品	140	1,486
原材料及び貯蔵品	67,144	76,892
その他	27,525	29,087
流動資産合計	2,694,063	2,341,089
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	67,668	67,668
減価償却累計額	△31,222	△34,375
建物及び構築物(純額)	36,445	33,293
工具、器具及び備品	293,223	350,529
減価償却累計額	△216,226	△241,507
工具、器具及び備品(純額)	76,996	109,021
有形固定資産合計	113,442	142,314
無形固定資産		
その他	89,206	92,830
無形固定資産合計	89,206	92,830
投資その他の資産		
その他	32,601	32,412
投資その他の資産合計	32,601	32,412
固定資産合計	235,251	267,556
資産合計	2,929,314	2,608,646

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2022年6月30日)	当第3四半期連結会計期間 (2023年3月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	103,642	48,307
電子記録債務	55,340	37,849
未払金	33,017	25,076
未払法人税等	6,567	4,079
賞与引当金	1,199	4,563
その他	57,048	35,097
流動負債合計	256,815	154,974
固定負債		
退職給付に係る負債	15,816	5,254
繰延税金負債	373	—
固定負債合計	16,190	5,254
負債合計	273,005	160,229
純資産の部		
株主資本		
資本金	941,473	941,473
資本剰余金	655,375	655,375
利益剰余金	1,012,549	819,654
株主資本合計	2,609,398	2,416,503
新株予約権	14,876	—
非支配株主持分	32,033	31,913
純資産合計	2,656,308	2,448,416
負債純資産合計	2,929,314	2,608,646

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自2021年7月1日 至2022年3月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自2022年7月1日 至2023年3月31日)
売上高	777,987	593,661
売上原価	616,877	500,473
売上総利益	161,110	93,187
販売費及び一般管理費	304,411	301,157
営業損失(△)	△143,300	△207,969
営業外収益		
受取利息	45	15
固定資産売却益	551	158
生命保険配当金	392	385
未払配当金除斥益	164	232
還付加算金	157	—
その他	56	138
営業外収益合計	1,367	931
営業外費用		
為替差損	58	41
固定資産除却損	9	59
固定資産売却損	—	66
その他	1	33
営業外費用合計	69	200
経常損失(△)	△142,002	△207,238
特別利益		
棚卸資産売却益	9,462	—
新株予約権戻入益	—	14,876
在庫引取損失引当金戻入額	5,353	—
受取保険金	5,000	825
特別利益合計	19,815	15,702
特別損失		
製品自主回収関連損失	19,145	—
特別損失合計	19,145	—
税金等調整前四半期純損失(△)	△141,332	△191,536
法人税、住民税及び事業税	1,987	1,852
法人税等調整額	2,905	△373
法人税等合計	4,893	1,478
四半期純損失(△)	△146,226	△193,015
非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	△470	△120
親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△145,756	△192,895

四半期連結包括利益計算書
第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2021年7月1日 至 2022年3月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2022年7月1日 至 2023年3月31日)
四半期純損失(△)	△146,226	△193,015
四半期包括利益	△146,226	△193,015
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△145,756	△192,895
非支配株主に係る四半期包括利益	△470	△120

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

I 前第3四半期連結累計期間(自 2021年7月1日 至 2022年3月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	四半期連結損益 計算書計上額 (注) 2
	I o T事業	製造受託事業	開発受託事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	337,259	241,618	199,110	777,987	—	777,987
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	—	—	—	—	—
計	337,259	241,618	199,110	777,987	—	777,987
セグメント利益又は損失 (△)	△4,727	25,789	△21,391	△329	△142,971	△143,300

(注) 1. セグメント利益又は損失の調整額△142,971千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用△142,971千円であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

II 当第3四半期連結累計期間(自 2022年7月1日 至 2023年3月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	四半期連結損益 計算書計上額 (注) 2
	I o T事業	製造受託事業	開発受託事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	356,008	31,575	206,076	593,661	—	593,661
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	—	—	—	—	—
計	356,008	31,575	206,076	593,661	—	593,661
セグメント利益又は損失 (△)	△52,519	2,325	△6,589	△56,784	△151,185	△207,969

(注) 1. セグメント利益又は損失の調整額△151,185千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用△151,185千円であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。